

チャンギ国際空港 第一ターミナルビル 増改修工事

株式会社竹中工務店 シンガポール事務所 総括作業所長

中尾誠一郎

Seiichiro Nakao



事務所棟より第一ターミナル全景 (完成)



出発階エントランス・ガラスキャノピー



シンガポールについて

シンガポール共和国は、東南アジアのマレーシアに隣接するシンガポール島と周辺の島を領土とする都市国家で、イギリス連邦加盟国です。面積は約七〇〇平方キロメートル（東京二三区「六二・五平方キロメートル」をやや上回る規模）です。人口は約五〇八万三、七〇〇人（二〇一一年六月末の数字で永住者、および長期滞在「二年超」の外国人が含まれる）で華人（中華系）が約七七％、マレー系が約一四％、インド系が約八％、その他が一％といった複合民族で構成されており、主に三つの民族による三つの文化が存在・融合しています。

一九六五年の建国以来、安定的な経済成長を遂げており、二〇一〇年の一人当たり名目GDPがアジア一位（世界ランキングでは一五位、日本は一六位）、二〇一一年のGDP伸び率も五・三％（予測値）と堅調さを維持し続けています。スイス・ローザンヌの国際経営開発研究所が年一回発表している世界競争力年間ランキングは、同率一位のアメリカ・香港に次ぐ三位（日本は二六位）と、世界でも注目を集めています。また、各方面で議論をよんでいるTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）の当初締結四カ国の一つです。

チャンギ国際空港について

チャンギ国際空港は、世界空港ランキングで常にトップクラス（二〇一一年二位、二〇一〇年一位、二〇〇九年三位）にランキングされていますが、その歴史は約三〇年前の一九八一年の開港に遡ります。

当社は一九七八年にシンガポール政府から本（第二）ターミナル工事を受注し、三六カ月で竣工しました。当時のシンガポールの人口は約二三七万人（現在の半分以下）でした。その後、第二ターミナル、第三ターミナルを新築し、シンガポールの成長と歩みを共にするようにアッ



管制塔より第一ターミナル全景 (施工中)

プロジェクト概要

今回の工事は、二〇〇八年五月から三年以上に渡る長期の工事であり、既存の躯体・屋根の一部を解体し新たなデザインと機能を付加するもので、増築面積を含んだ全館の改修面積は約一六万平方メートル、増床面積約二万二、〇〇〇平方メートルの大規模改修工事を担当しました。

今回の工事は、二〇〇八年五月から三年以上に渡る長期の工事であり、既存の躯体・屋根の一部を解体し新たなデザインと機能を付加するもので、増築面積を含んだ全館の改修面積は約一六万平方メートル、増床面積約二万二、〇〇〇平方メートルの大規模改修工事を担当しました。



エアサイド大規模増築工事 (施工中)

と大規模なものです。工区は一四九エリアに及び、部分引渡をマイルストーン毎に行っていました。

主要工事内容としては、

- ① 出発階エントランス車寄せエリアにガラスキャノピーを新設
- ② 出発階既存屋根解体、大規模曲面ガラス屋根を新規に設置
- ③ 出発階のガラスカーテンウォールの新設、天井及び壁の全面リニューアル
- ④ エアサイド（駐機エリア）の増築

などターミナルビル各所で工程が幅寄せし、十分なコーディネートが必要なお仕事です。

また、第二ターミナル工事と同様に、二四時間稼働の空港機能を一切止めることなく、空港利用者への影響を最小限に留めて、厳しい空港安全規定のもと、この大規模工事を完成させることができました。

三〇年前の第一ターミナルビル着工時に採用したローカルスタッフは、今では当社シンガポール事務所のコア人材となっており、「人がプロジェクトをつくり、プロジェクトが人をつくる」ことを実感しました。今後もチャンギ国際空港がエンドユーザー・ステークホルダーにとって最高のサービスを提供でき、高評価を得られ続けるよう対応して参ります。